

『必要とされ、選ばれるJA』

をめぐして



代表理事組合長
石澤清治



新年明けましておめでとうございます。
組合員の皆様には「令和」になってはじめての新春を、ご家族おそろいでお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素はJAの事業について、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。今年こそ穏やかで災害の無い良い年となりますよう願っております。

昨年は、長梅雨、連日の猛暑日、相次ぐ台風の襲来や大雨等により、想像を絶する堤防の決壊、河川の氾濫などの大災害が各地で発生し、農作物等は甚大な被害を受けました。幸い当管内では大きな被害は免れましたが、台風による暴風雨、長雨、日照不足等の影響を受け、一部の農作物で生育不良、根腐れ、病気等が発生しました。野菜は被災を受けなかった産地での豊作により価格は低迷、米作は例年になく収量減、花植木は需要の減少傾向が続く、県内で豚コレラ(CSF)が発生するなど農業にとって多難な年でありました。一方、4月には「JAふかや」と「JA榛沢」が合併し、「新JAふかや」がスタート、5月には元号が令和に、6月には総代会でJA経営の指針となる「新中期3か年計画(令和元年～3年度)」が承認されました。また、郷土の偉人、渋沢栄一翁が新一万円札の肖像に選定され、さらにNHKの大河ドラマの主人公に決まるなど明るい話題もありました。今年には合併2年目、その効果が問われる年です。特産野菜を中心に、お互いの強みを最大限に発揮し、有利販売につなげていくとともに、組合員や地域の皆様からJAふかやは、「今後ともなくてはならない必要な組織」「購買品やJA共済など農協のモノは安心して選べる」と言われるよう、なお一層努力して参ります。

また、JAの自己改革は待ったなしです。絵に描いた餅とならないよう「新中期3か年計画」に盛り込んだ各事業の数値目標を達成し、「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」を確実に実践していかなければなりません。特に、超低金利の継続による信用事業収益の減少に耐えられる経営基盤を確立維持していく等のため、「支店統廃合と再編整備」をはじめ、高齢社会の進行による葬儀形態の変化に対応した「アグリ施設の整備」、「生産資材の引き下げと低コスト生産技術の確立普及」、「市場や量販店が求める生産・販売方式への転換」、「担い手の育成と支援」、「直売所の整備」、「スマート農業の推進」などに全力で取り組んで参ります。

今日、農業・JAを取り巻く環境は、少子高齢化、担い手不足、不耕作地の増加、世代交代の進行、組合意識の希薄化に加え、災害に強い農業生産基盤づくり、増加する鳥獣害対策の強化など課題が山積しています。引き続き、准組合員規制の在り方など農協改革や、国際貿易協定発効に伴う国内対策の動向にも注視しながら、今年も、役職員一丸となって「JAふかや」が更に光輝くよう、全力投球をして参ります。